



# 透湿弾性トップ

ホルムアルデヒド放散等級  
F☆☆☆☆  
NSK - 0306294

「透湿弾性トップ」は、水系弾性アクリル樹脂を主成分とする、透湿性を持つ上塗材です。

## 特長

### 01 優れた透湿性

「透湿弾性タイル・L」と組み合わせることにより、塗膜として防水性能も兼ね備え、塗膜の膨れ、剥離を防止します。

### 02 弾性

「透湿弾性タイル・L」用の弾性上塗材です。

## 用途

住宅、マンション、店舗、事務所、その他一般建築物の内外装。  
透湿弾性タイルLの上塗材。

## 適用下地

透湿弾性タイルシリーズの適用下地（コンクリート・モルタル等）に準拠します。

- ※下地材により下地調整処理が必要になります。
- ※ALC面、多孔質下地、粗面下地、その他素地に巣穴、段差などがある場合は、キクスイ フィラー、キクスイファンデ、ソフトリカバリー等で適切な下地調整を行ってください。
- ※押出し成形セメント板、GRC板等は下塗材としてキクスイプライマーEPW、キクスイSPパワーシーラーをご使用ください。

### ■透湿弾性タイル・L

工程	材料・調合		施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (hr)	所要量		
下地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウェス等で除去し、乾燥した清潔な面とする。							
下塗り	透湿弾性タイル専用プライマー	主材: 15kg 無希釈	ウールローラー等	1	1以上	80~100㎡/15kg 0.15~0.19kg/㎡		
主 材 塗 り	凹凸模様 ・凸部処理	基層 塗り	透湿弾性タイル・L ベース	主材: 18kg 清水: 0.5~1.1L	リシンガン 口径: 5~6mm 吹圧: 0.5~0.6MPa	1	3以上	12~15㎡/18kg 1.2~1.5kg/㎡
		模様 塗り	透湿弾性タイル・L 模様	主材: 18kg 清水: 0~0.5L	タイルガン 口径: 6~8mm 吹圧: 0.2~0.3MPa	1	18以上 凸部処理 1以内	22~25㎡/18kg 0.7~0.8kg/㎡
		凸部 処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーを付けて均一に押える。				18以上	-
	吹付 ゆずはだ状	基層 塗り	透湿弾性タイル・L ベース	主材: 18kg 清水: 0.5~1.1L	リシンガン 口径: 5~6mm 吹圧: 0.5~0.6MPa	1	3以上	17~20㎡/18kg 0.9~1.1kg/㎡
		模様 塗り	透湿弾性タイル・L ベース	主材: 18kg 清水: 0.5~1.1L	リシンガン 口径: 6~8mm 吹圧: 0.5~0.6MPa	1	18以上	25~30㎡/18kg 0.6~0.7kg/㎡
		ゆずはだ状 [ローラー]	基層 塗り	透湿弾性タイル・L ベース	主材: 18kg 清水: 0.3~1.0L	多孔質ローラー	1	3以上
	模様 塗り	透湿弾性タイル・L ベース	主材: 18kg 清水: 0.3~1.0L	多孔質ローラー	1	18以上	18~23㎡/18kg 0.8~1.0kg/㎡	
上塗り	透湿弾性トップ	主材: 16kg 清水: 0.8~1.6L	エアレススプレー ウールローラー 等	2	工程内 2以上	40~64㎡/16kg 0.25~0.40kg/㎡		

※1. 施工用具・条件は代表的なものです。

※2. 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。



# 透湿弾性トップ



## 荷 姿

キクスイ 浸透性プライマー E	NET: 15kg/ 缶
透湿弾性タイル専用プライマー	NET: 15kg/ 缶
透湿弾性タイル・L ベース	NET: 18kg/ 缶
透湿弾性タイル・L 模様	NET: 18kg/ 缶
透湿弾性トップ	NET: 16kg/ 缶

## JIS A 6909( 建築用仕上塗材 ) 製品組合せ

呼び名		主材	下塗材	上塗材
複層仕上塗材	防水形複層塗材 E	透湿弾性タイル・L ベース	キクスイ 浸透性プライマー E 透湿弾性 タイル専用プライマー キクスイ S P パワーシーラー キクスイ 浸透性プライマー S P	透湿弾性トップ
		透湿弾性タイル # 100	キクスイ 浸透性プライマー E キクスイ プライマー E P W キクスイ S P パワーシーラー キクスイ 浸透性プライマー S P	透湿弾性トップ

### 注 意 事 項 ( 水 系 上 塗 材 )

#### 【施工上の注意事項】

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率10%以下、pH10以下で施工してください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白剤「Kスクリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
- ヤニ、シミが著しい場合は水拭き後、下塗りとして水系ヤニ、シミ止め白色下塗材「シミナイト」を使用してヤニ、シミ止めを行った後上塗りを行ってください。
- コンクリート下地の旧塗膜の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後に、「キクスイ浸透性プライマー E」や、「キクスイ S P パワーシーラー」を使用してください。
- 押出成形セメント板、GRC板、ケイ酸カルシウム板などには、下塗りとして「キクスイ S P パワーシーラー」や、「キクスイプライマー E P W」を使用してください。
- ALCやコンクリートなどで単層、段差などがある場合は、セメント系下地調整塗材「BR # 15」等で処理してください。
- 無機塗料、特殊下地の塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 合成皮革、ゴムパッキン、軟質塩化ビニル製品などは、塗膜との接触を避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起きる場合があります。
- 蓄熱しやすい建材（軽集モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）に塗装する場合は、蓄熱や水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なるとこの建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。ご採用に当たっては最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。
- 下地が弾性系塗膜の場合には、弾性系上塗材を使用してください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合、(高湿度、結露、降雨等) 塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が遅くなりますので施工を行わないでください。
- 外部の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生を、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。○施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工面周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 塗料は均一にミキサーで撹拌してから使用してください。
- 二液反応硬化形の材料の場合は、主材と硬化剤を指定の比率で混合し、ミキサーで混ぜ合わせて使用してください。特に小分けで使用する場合は、計量器を用いて行ってください。混ぜ合わせ後の材料は、可使用時間内に使い切ってください。また、可使用時間は温度、希釈率などの条件により異なりますので、注意してください。
- 材料の希釈率は所定の量により、所定の所要量を守り事前の試験塗りなどで決定してください。希釈の過多、不足はタレや艶の不足、仕上がりにムラの原因になります。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び開隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 色、模様等の決定に当たっては事前に見本板を確認してください。
- 被塗物の形状、膜厚、塗り回数、希釈率などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所でも起こる場合があります。特に調整製品は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の艶と若干違ってくる場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ローラー塗り場合は、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- 傷などで補修が必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、濃色塗料は、被塗物の形状、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干違ってくる場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
- 他の材料と混合して使用しないでください。
- 水性塗料には動物毛の刷毛は固まり塗装に支障が出ますので化学繊維の刷毛を使用してください。
- 上塗りのローラー塗装において、綿毛のローラーで水系塗料を塗装し泡が発生した場合は、糸毛のローラーを使用してください。
- 使用後は刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。
- 溶剤系の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- ローラー塗り場合は、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。

- つや調整製品は、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします。
- つや調整製品は、塗料が分離しやすいので、良くミキサーで混ぜながらご使用ください。
- 刷毛塗りやローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
- 濃色や原色に近い色彩では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は行わないでください。施工する場合は、クレーンによる保護塗装を行ってください。
- 上塗りに黄色、赤色、青色、緑系の彩度の高い色を塗装する場合、隠れ性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして共色を塗装してください。
- 希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
- 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
- 施工部位により、傾斜壁の下部、水切りの無い部位、窓周りで水切りが不十分な場合、雨掛りの少ない部位などは低汚染性が十分に発揮されない場合があります。
- 施工後、塗膜が乾燥するまでの間に、塗膜表面に長時間水がかかった状態になりますと、艶引け、ひび割れ、変色等が発生する場合があります。また、艶消し品や濃色品では低温時、湿度が高い状況下などでは塗膜に艶が出たり、白濁、塗膜中成分の流出が起こる場合があります。
- 各シーリング材は可塑剤の含まないノンブリードシーリング材を使用してください。また、シーリング材の上へ直接施工する場合、シーリング材の種類や材齢によって塗膜が付着しない場合があります。詳しくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗膜に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスクングを行ってください。
- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。
- 建築用仕上塗材（JIS A 6909）複層塗材および可つや形改修塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS規格品とはなりません。

#### 【安全衛生上の注意事項】

- 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート:旧MSDS)を参照してください。
- 取扱後は手洗い、うがいを十分にしてください。
- 適切な保護袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 火花を発生しない器具を使用してください。
- 屋外または換気の良い場所でのみとし、火気厳禁にしてください。
- 必要な時間以外は、環境への放出を避けてください。
- 製品の混ぜ合わせは、防爆型ミキサーにて行ってください。また、必ずアースを取ってください。
- 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にかぶれを引き起こす恐れがあります。皮膚に付着しないよう特に注意してください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。
- 粉じん、揮発物等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 使用後保管する際は無希釈の状態ですっきり密栓して40℃以上の場所では保管しないでください。できるだけ早くに使用してください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。
- 保管場所、取り扱い場所とその周辺には、塗装中、乾燥中共に、熱、火花、高温体のような発火源を遠ざけ火気厳禁としてください。取扱いは、法令に沿って保管を行い、特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短期間に引火性の高い蒸気が発生します。注意してください。
- 合成樹脂製の電気絶縁性の床で材料の保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の服を着用してください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料や塗料の付いた布などを処分する際は、法令に従い産業廃棄物として処理してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水、塗料の付いた布などはそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

### 取扱店



## 菊水化学工業株式会社

本社 名古屋市中区錦2丁目19番25号 日本生命広小路ビル  
☎052-300-2222(代)

- 仙台支店 ☎ 022-706-5710
- 東京支店 ☎ 03-3981-2500
- 名古屋支店 ☎ 0568-69-5200
- 関西支店 ☎ 06-7668-5320
- 福岡支店 ☎ 092-935-4610

●ホームページアドレス <https://www.kikusui-chem.co.jp/>

